

## なぜ、人は常識に縛られるのか？

株式会社賢嶺 名前 山岡哲也

人は、なぜ変化を嫌うのでしょうか？

新しい土地より慣れた土地。新しい職場より慣れた職場。新しいやり方より慣れたやり方。新しい常識より慣れた常識。

研修講師やコンサルティングの仕事をしていると必ずぶち当たる壁があります。

「出来て当たり前、失敗は悪」という価値観に支配された環境においては、変化はリスクでしかないのかもしれない。

とは言え、社会や組織を取り巻く環境は、私たちの想像を超えるスピードで変化しています。通信機器や手段の進歩、デジタル化、少子高齢化など、予想されていた未来が急激に現実のものとなっています。

周りの環境が変化しているのに、その環境下に居る人々の価値観が変わらないとどうなってしまうのか？自明の理であると思います。

ご存知だと思いますが、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を意味する VUCA（ブーカ）という言葉もビジネス用語として定着しつつあります。

すべての人が、苦手意識を持たずビジネスに関する書籍を読むなど新たな知識を自ら積極的に得る行動をとり、人に言われるまま受け入れるのではなく自身で考え、自ら成否の判断や答えを探すことを実行していくことが大切な世の中になったと感じています。

誰かがやってくれるのを待つのではなく、1人1人の影響力は小さくとも、仲間を募り協力することで大きな変化を生み出せるのではないのでしょうか。

そのうえで、答えを探すためには、得られた情報を取捨選択し時間をかけて考えることが大切になります。じっくり考える時に必要なことは、「なぜ？」と自問自答することですが、忙しくしていると考える時間の優先順位が下がってしまうことはありませんか？

また、人生経験を積むことで、疑問に思うことが少なくなってしまうような気がします。周りに対して疑問を感じるものが少なくなったと感じることがあるならば、慣れによるものかもしれません。

しかし、慣れるということは熟達していることでもあるので、その点において問題はありませんが、進歩せず現状維持の状態であれば問題ではないのでしょうか。

階層や肩書にとらわれず、広く積極的にアイデアを出し、具体化することで評価をし、実行することでトライアル&エラーを繰り返す。この一連の行動を行うことが VUCA 時代に対応する方法の一つであることは間違いないと信じます。

以上のことを実践するために必要な基本的考え方のひとつがマネジメントになります。マネジメントとは、現状をよしとせず、より良い手段や結果を探し続けるための技術であり考え方です。すべての職員が楽しみながら業務を行うことが出来る環境を整えるためにも、ぜひマネジメントを学び、実践できるスキルに昇華していただきたいと思います。

世の中の「なぜ？」を感じる感性を磨き、今ある常識をアップデートしていく人材が多くなれば、より一層魅力を感じる世の中になるような気がしてなりません。よりよい未来のためにも頑張ってみませんか？



三重県津市出身。京都大学工学部卒。同大学院工学研究課修士過程修了。専門は、鉄筋コンクリート構造学。卒業後、大手ゼネコンに入社するが、2年弱で退社。

その後、「自ら自分の仕事を創る」と志し、衆議院議員選挙の選対本部への参加から、ラーメン店の店舗開発・運営、大手訪問販売の営業を経て、管理職に求められる行動やモチベーション維持の大切さ、組織内コミュニケーションの重要性を知る。通算 1000 回を超える研修講師の経験を踏まえ、「人」と「組織」を軸とした組織マネジメントや人材育成などのセミナーのプランニングから登壇までを行いつつ、大手企業や官公庁から中小企業まで幅広い組織において人材開発・組織開発・事業マネジメントに関する専門的コンサルティングを精力的に行っている。